

資料 3

平成 31 年度における放課後児童クラブの利用予定者数について(平成 31 年 3 月 1 日見込数値)

平成 27 年度から平成 31 年度までの期間における量の見込みと提供体制

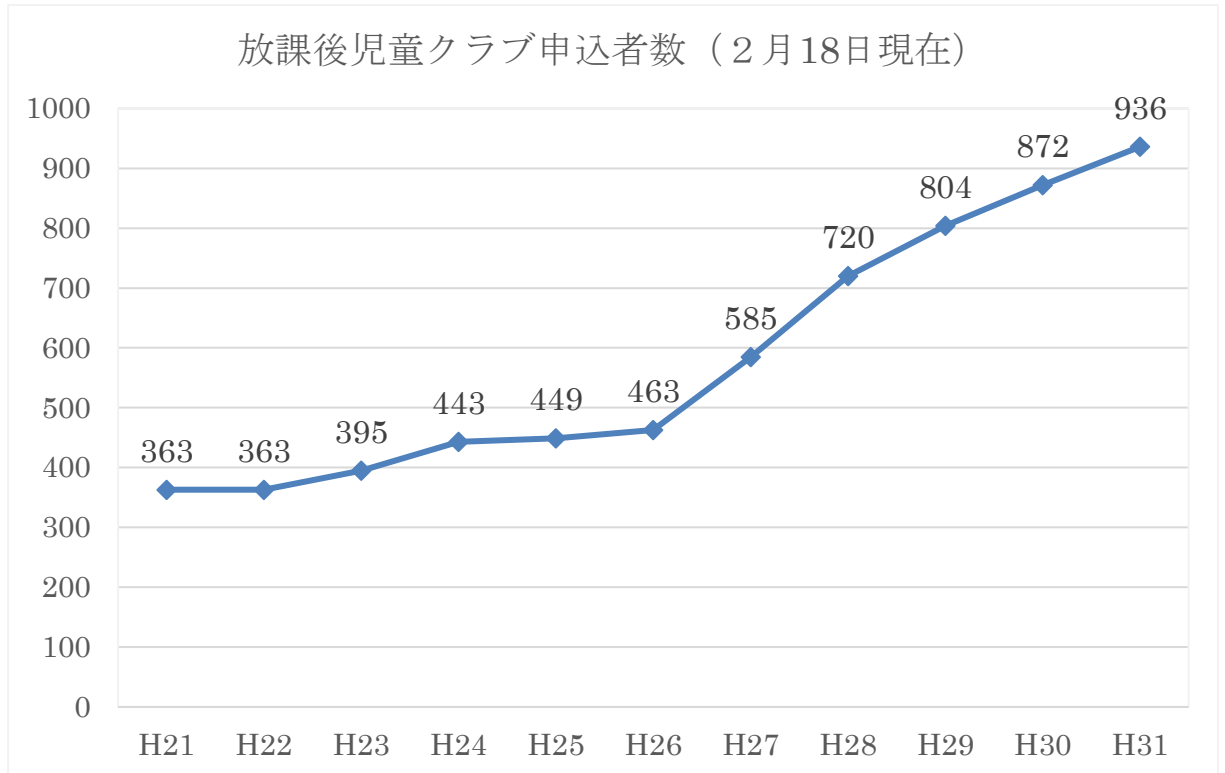
≪米原市子ども・子育て支援事業計画の一部抜粋≫

(単位：人)

		単位	H27	H28	H29	H30	H31
低学年 (6-8歳)人口推計		人	1,025	1,071	1,056	1,040	1,022
高学年 (9-11歳)人口推計		人	1,098	1,058	1,021	1,025	1,070
量の見込み (ニーズ量)	合計	人	526	532	521	871	941
	低学年	人	338	351	347	546	590
	高学年	人	188	181	174	325	351
確保方策	登録児童数	人	500	500	520	871	941
	施設数	か所	9	9	9	9	9

平成 31 年度 放課後児童クラブの受入計画

放課後児童クラブ 利用申込者数の推移



平成 31 年度 クラブ別申込状況

カッコ内は前年度との比較

	大原	山東	柏原	米原	河南	げんきッズ 息長	げんきッズ 坂田	坂田	伊吹	お家笑里 (民間)	合計
年間	110 (9)	34 (7)	24 (-5)	138 (6)	18 (4)	41 (1)	43 (-19)	14 (-25)	49 (-7)	50 (50)	521 (21)
長期	57 (8)	39 (5)	18 (0)	57 (18)	22 (5)	50 (6)	52 (-19)	6 (-13)	90 (9)	24 (24)	415 (43)
合計	167 (17)	73 (12)	42 (-5)	195 (24)	40 (9)	91 (7)	95 (-38)	20 (-38)	139 (2)	74 (74)	936 (64)

※坂田小学校区は、地域割により近江げんきッズ坂田と坂田児童クラブで受入れ

※伊吹（いぶきっ子クラブ）では春照小学校と伊吹小学校の児童を受入れ

※近江げんきッズ坂田および坂田児童クラブの申込人数の大幅な減の主な理由は、民間児童クラブの受入れによるもの。

平成 31 年度の受入体制

放課後留守家庭の安全・安心な生活の場として、放課後児童クラブ事業を市内 9 か所（15 支援単位）で開設しているところですが、利用ニーズは、年々増加傾向にあります。

これまでは、待機児童を極力出さず、かつ、安全な受入れ環境を確保するために、児童クラブ運営受託者や学校等との協議を重ねてきましたが、児童の安全を確保する観点から定員を見直した結果、平成 31 年度においては、待機児童が発生することとなりました。

こうした状況において、引き続き、市として県内一子育てのしやすいまちを目指し、安全安心に児童を受け入れられるよう、次のとおり、受入れ体制の整備を進めます。

○平成 31 年度 クラブ別待機状況

	大原	山東	柏原	米原	河南	げんきッズ 息長	げんきッズ 坂田	坂田	伊吹	お家笑里 (民間)	合計
年間	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
長期	19	15	0	23	10	0	0	0	19	0	86
合計	25	15	0	23	10	0	0	0	19	0	92

※河南児童クラブ以外の長期休業期間の待機は、夏休みのみ。

○大原（大原児童クラブ）は、大原小学校に隣接する旧大原幼稚園で開設しています。現在の施設だけでの受入れが困難な状況であるため、平成 30 年度から、小学校と協議した上、放課後に図工室を放課後児童クラブに利用して、高学年の児童を受け入れています。平成 31 年度は前年度と比べて申込児童数が 17 人増加し、今後も利用児童数の増加が見込まれることから、平成 31 年度に施設を増設します。

○坂田小学校区では、利用児童数が多く 1 か所での受入れができないために地域割（自治会別に利用クラブを指定）で近江げんきッズ坂田（旧坂田診療所内）と坂田児童クラブ（坂田小学校内余裕教室）の 2 か所で放課後児童クラブを開設しています。

このうち坂田児童クラブについては、余裕教室 1 室のみで運営しており、住宅開発等により次年度以降の児童数の増加が予測されるため、安定的な開設場所の確保を行う必要があり、平成 31 年度に旧坂田診療所の医師住宅を解体し、当該敷地に児童クラブ施設を整備します。

○米原小学校区においては、平成 30 年度に旧米原幼稚園舎を改修し、定員増加に努めましたが、米原駅周辺の新興住宅地の開発が進み、平成 31 年度の放課後児童クラブへの申込児童が予想以上に増加しています。今後は安定的な運営を行うためにも、大規模化したまいはらっ子クラブを平準化させることが必要であり、民間児童クラブの参入を促すことが喫緊の課題となっています。